

キャラクター名
藤宮 百合

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハイロウ		ワークス	情報屋	カヴァー	バーテンダー
	モルフェウス					
オプション			年齢	29	性別	女
覚醒	生誕	衝動	殺戮	初期侵食率	35 %	
出自	犯罪者の子	経験	犯罪	邂逅	ビジネス	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	23
肉体	1	0	0			1	行動値	11
感覚	5	0	0			5	(非装備時)	11
精神	1	0	0			1	戦闘移動	16
社会	1	1	0			2	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:裏社会	5	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
引き金は手の中に(ガンズ・イン・ハンズ)						M1+M2 コスト4 戦闘移動 攻撃力+Lv+4の武器作成
俺の時間(パレットタイム)	射撃	5r		+10		1+2+3 装甲無視 コスト7 武器作成済み
もう一人の私(アナザーマイン)	射撃	10r		+40		1+2+3+4 装甲無視 コスト11 武器作成済み

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:手配師	
コネ:要人への貸し	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
戦闘用人格	P	N		
鬼塚大吾:GR	P 尊敬	N 隔意		
もう一人の自分:OR	P 有為	N 不快感		
天草岳人(シナリオ)	P 有為	N 不信感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
光芒の疾走	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	戦闘移動 封鎖無効 シーンLv回							
ハンドレッドガンズ	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	攻撃力+Lv+4の武器作成							
CR:エンジェルハイロウ	2	2	メジャー				-	
効果:	C値-Lv							
ピンポイントレーザー	1	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果:	装甲無視 攻撃力+5+Lv							
死点撃ち	3	3	メジャー	武器	単体	対決	-	
効果:	装甲無視エフェクトと組み合わせ 攻撃力+Lv×3							
マスヴィジョン	3	4	メジャー	-	-	対決	100↑	
効果:	攻撃力+Lv×5 シナリオ3回							
サイコメトリー	1	1	メジャー	-	-	-	-	
効果:	情報ダイス+Lv+2							
七色の直感	★							
効果:								
文書偽造	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「なるほど…貴方はそんなことを見たの…聞かせてくれてありがとね」
「私は…そうね、アネモネとも呼んでもらえるかしら？」
「ハハッ、やっとなの番か…たっぷりと撃たせてもらおうぜ…？」

M市で活動するFHエージェントの両親から生まれた女性。
生まれたころからオーヴァードであり、様々な訓練を受けてきた。
銃火器の訓練も受けていたが、その際トリガーハッピーであることが判明。それ以降、‘彼女’が嘯きかけてくるようになった。
いずれ、彼に体に乗っ取られてしまうのではないかという恐怖から、銃を握ることを嫌い、モルフェウスの力を生かした情報収集を中心としていた。
その後、所属していたセルは壊滅し、彼女はそのままFHを離反、表の顔として酒場を営みながら情報屋として活動している。
UGNM市支部長、鬼塚大吾とは元々は敵対関係だったものの今ではビジネスパートナーとして付き合っている。

性格は冷静、他人に興味を持たないように思われがちだが、お節焼きな一面もある。しかし、銃を握りたくなりたいめ争いは好まない。
自分の百合という名前と金色の髪が黄色の百合の花言葉である「偽り」を想像させるためあまり好きではない。
自分は偽りではない、偽りなのは‘彼女’だ。そう思う彼女は知人には苗字で呼んでもらい、情報屋としてはアネモネ(真実)と名乗っている。